

2024 年第 3 回定例会 補正予算第 2 号 反対討論

議案第 6 2 号 令和 6 年度調布市一般会計補正予算（第 2 号）に対し、生活者ネットワークは反対の立場から討論いたします。

その大きな理由は、市制施行 7 0 周年記念事業費です。補正予算額全体からすれば額は大きくありませんが、様々な課題があることから、本事業に絞って討論いたします。

まず、7 0 周年記念事業費の 5 5 0 万円は、調布版「地球の歩き方」の作成に必要な出版社の取材費ということで、当初予算 1 0 0 万円からの増額で、総額としては約 1, 5 0 0 万円かかることが見込まれています。市はこれまでに、5 0 周年のときには 7 0 0 万円、6 0 周年のときには 4 0 0 万円で市勢要覧を作成してきており、そうした市勢要覧の作成を否定するものではありません。

しかし、今回、7 0 周年という半端なタイミングでありながら、急遽補正予算を組み、事業を大きく拡大して実施するという事で経緯を伺ったところ、委員会では、2 月に世田谷区版が出版され話題になったのが、たまたま 7 0 周年のタイミングに近かったからだとの説明がありました。つまり、他自治体の事例を発端とした、突発的な思いつきがきっかけだということです。実際、熟慮の末の案ではないことが事業の端々からうかがえますので、課題点を述べます。

まず、市は今回、市民の皆さんにも積極的に手に取っていただけるようなものにしたいと考え、民間に頼ることにしたようですが、「地球の歩き方」は通常、2, 0 0 0 円から 2, 2 0 0 円程度で販売されています。この価格は、市民が手に取りやすいものとは言えません。

また、それ以外にも市民の負担が大き過ぎます。先ほど世田谷区版に触れましたが、こちらは出版社が世田谷区を選んで作成したもので、区は関わっていないため、公費は割かれていないようです。調布版は市民の税金から取材費や作成費を支払い、お願いして作成してもらうものです。式典での配布分などは市がさらに税金で購入、それとは別に、市民も自分で購入することになります。取材費も作成料も支払ってくれた上に、売上げも入ってくるわけですから、出版社にとってはありがたい話ですが、市民は作成費用を税金で負担した上に、購入もすると二重に負担することになります。

そこまで市民が負担し、民間の力を借りなければ、調布市は自分のまちの魅力を発見することも発信することもできないと公言しているかのように感じています。

そもそも、まちの魅力を判断するのは市民自身であるべきですから、行政や民間がまちの魅力を判断する主体になっていることも問題です。市民の参加と協働をまちづくりの柱

に据えているのですから、調布の魅力を多角的に深掘りしたければ、広報課が日頃から撮りためた写真や情報を活用し、日々、リアルにまちの魅力を実感している市民や子ども、障害者、高齢者、みんな一緒に作成プロセスを楽しみながら作ったほうが、商業主義によらず、身の丈に合った市民目線のよいものができると思います。作成のプロセスで子ども参加や共生の充実も図ることができれば、総合計画の取組の前進も期待できますし、それがさらに市の魅力につながると思います。

市民参加の大前提である情報の共有を担っている部署でそういった発想が生まれないのは、日頃から市民の参加と協働が意識されているのだろうか、疑問を感じるものです。

行政が取り組むべきは、魅力あるまちづくりを日頃から日常的に市民と共に進めることであり、その積み重ねの結果が出版社からも評価されれば、自然と声がかかるのだと思います。広報課があって、市民はその人件費も負担しているのに、わざわざ多額を投じて、調布市をほとんど知らない出版社に市の魅力を見つけてもらう必要性は感じられません。70周年だからと、他自治体がその魅力のゆえに選ばれて出版に至った商業主義的な観光案内書をまねて、こちらから税金を投じて作成をお願いすることは、一市民としても不名誉なことだと感じており、市民の理解は得られにくいと思います。

市は、これまでの市勢要覧は市外へのアピール力に欠けていたことを課題として見ていたと説明がありました。しかし、そもそも市は、これまでの市勢要覧をホームページに掲載する努力すらしていません。市独自に作成すれば、公共施設に広く配架したり、他自治体のようにホームページに掲載するほか、小・中学生がタブレットで見られるようにデータを共有したり、市報の臨時号として全戸配布することもできます。まずはこうした努力をするべきです。

しかし、民間に委ねてしまえば、残念ながら、出版社が所持するデータは市が自由に使うことはできません。だからといって、事業者が入手した情報や作成したものを市が活用しようと、さらに市民の経費負担を増やすことは許されないことです。

本事業は公平性の観点でも大きな問題があると考えています。大部分が一般的な「地球の歩き方」に掲載される観光案内のような内容になる予定ですが、そこには出版社が取捨選択する店舗情報などもあり、民間の収益に影響を与えます。世田谷区版と違って、調布市版は税金が充当されますので、当然公平性が問われる問題を伴います。公平性が問われる可能性があるものを税金を投じて作成し、全国に拡散することにも賛同することはできません。

これまでのやり取りでは、日頃から市の広報活動では公平性が求められていることへの認識が示されていないのですが、これは産学官との連携などを進める中で、行政が配慮すべき公平性の感覚が希薄化しているのではないかと懸念します。以前にも市民団体の活

動の市報掲載を断るという検閲のようなことが行われた過去もあり、情報を扱う部署において、公平性への意識が希薄化しているとすれば、直ちに改善するよう求めます。

以上のように、市制施行70周年記念事業には多くの課題があることから、その経費の一部が含まれる本補正予算に反対をいたします。

以上です。